

2024年度

野洲市教育研究所だより

No.3

2024.4.30

読書活動推進講座

4月16日（火）15:30～

野洲図書館にて

市内校園25名参加

野洲図書館の早田ひとし館長のご挨拶の後、司書の皆さんの紹介がありました。

乳幼児・小学校担当の梅原彩花さん、学務課兼務学校図書館担当の谷口雪子さん、小学校としょかんBOX担当の八代恵実さん、中学校・高校担当の大崎優美さんです。

最初に谷口さんが、『こねこのチョコレート』という絵本を読まれました。それに関連して、子どもの読書について「ネガティブな自分を受け容れるということ」というお話をいただきました。ネガティブな自分を受け容れられず、思い通りにならないことに耐えられない子どもが増えてきたことが近年の不登校等の要因になってきているとのことでした。保護者や大人が、子どものネガティブなところも受け入れること、そして絵本でネガティブな経験をすることで、実際の場でネガティブな自分を受け容れ、前向きに進むことができるという話でした。参加されたたくさんの先生方が、共感されていました。参考資料として、他に『「叱らない」が子どもを苦しめる』、『物語が生きる力を育てる』という本を紹介されました。

また、子どもにとって影響のある人から本を薦められると心が大きく動かされ読んでみようと思うと教えていただきました。

次に、梅原さんと矢代さんから、「野洲図書館利用案内」について話をいただきました。資料の団体貸し出し、司書の学校・学級訪問、子どもたちの図書館見学などの案内をしていただきました。最後に小中学校の先生方向けに、今年度の「学校図書館運営について」話をされました。昨年度から「ガリレオの図書室」が導入されたので、今年度の目標を2つ挙げられました。一つは、「蔵書管理をシステムで行うこと」、もう一つは、「もれがないように貸し出しを行うこと」の2点でした。学校図書支援員としてサポートしていただけます。

今年度は、各小中学校の図書ボランティアさんにも講座の案内を各校からしていただき、野洲中学校・野洲小学校・北野小学校から計6人参加していただきました。図書館の皆さんの話はもとより、この時期に図書担当者とボランティアさんが話す機会を持てたことは有意義であったと思われます。

最後に谷口さんから小中学校の先生方向けに、今年度の「学校図書館運営について」話をされました。昨年度から「ガリレオの図書室」が導入されたので、今年度の目標を2つ挙げられました。一つは、「蔵書管理をシステムで行うこと」、もう一つは、「もれのないよう貸し出しを行うこと」の2点でした。学校図書支援員としてサポートしていただけます。



資料冊子の「図書館利用案内」を見ていただき、園や学校での有効利用に生かしてください。

<参加者の感想等>

- 図書館の利用法やサービスを知ることができ、活用していきたいです。
- 調べ学習の本を配送していただけるのは、本当にありがたいです。続けてください。
- 昨年度のお話し会が好評でした。今年もぜひお願いしたいです。
- 図書館のサービスを校内に伝えていき、授業に生かしていきたい。
- ボランティアさんのおかげで図書館が回っています。司書さんがいてくだされば・・・。



まなび野洲チャレンジ！ 10

今年度最初の問題です。正しい答えの番号はどれでしょう。
答えは最下段に載せています。

三上山は、標高432mで、なだらかな稜線を描く円錐形の美しい山です。その端正な姿が富士山に似ていることから「近江富士」と呼ばれ親しまれています。湖南、湖東からはもちろんのこと、琵琶湖の対岸の湖西からもその秀麗な姿を望むことができ、陸地を歩く人や湖上を進む舟人たちの目印になるなど、近江盆地のランドマーク的な存在です。それゆえ、古来から歌人たちの心をとらえ数多くの和歌に詠み込まれてきました。



《 水田越しに見る三上山 》

「打出て 三上の山を ながむれば 雪こそなけれ ふじのあけぼの」と詠んだのは誰でしょうか。

①藤原定家

②紫式部

③清少納言

④北村季吟

リーダーシップを考える

ある学校長の思い

日本教育新聞より

職員会議等では、「例年通りで行います」という言葉が度々聞かれます。本年度新たに着任した教職員がいるにも関わらず、改めて説明されることなく会議は進行していきます。その企画の目的は書かれています。それほど気に留められることもなく、従来のやり方が引き継がれていくことが往々にしてあります。時間短縮が第一の目的のように。

令和元年末から新型コロナウイルス感染症の流行により、その「例年通り」が通用しなくなりました。卒業（園）式、入学（園）式、学級開き、家庭訪問、校外学習など次から次へと改めて考え直さなければならなくなりました。文科省・教育委員会等からの指示を受けつつ、詳細は学校・園による判断が求められました。果たして何が正解なのか？状況を探りつつ、目の前の難問を一つ一つくぐり抜けてきたのは、どの学校も同様であったことでしょう。

各家庭同様に、教職員も混乱していました。正解を求めて様々な意見が飛び交う中、短いスパンで決定しなければいけない事柄に追われる日々でした。優先課題を明示し、教職員の提言を受けつつ最良の策を選択し、最終判断に責任を持つのは学校のリーダーである校長だと示すことで日々乗り切ってきたのではないのでしょうか。

新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けられ、学校現場では、コロナ禍以前のやり方に戻すのか否かという議論になる場面もあります。しかし、この2、3年の間に異動や新採用などもあり、以前のことを知らない教職員も増えています。忘れてしまったことも少なくありません。ICT活用など学び方も大きく変わってきました。

だから、今こそ学校にありがちな前例踏襲を覆し、「それは何のために行うのか？」と教職員に問いかけることで、学ぶ力をつけることや働き方改革の観点も踏まえた、新たな学校文化を創造するチャンスではないかと捉えています。

目先の時間短縮ではなく、根本的な改善をすることで自転車操業的な学校運営から脱却しなければいけないのではと考えます。ピンチをチャンスに！

教育図書等 のご案内

今年度は、月刊誌「教育研究」、「授業力&学級経営力」、週刊「日本教育新聞」を用意しています。いずれも教育研究所で自由に閲覧できます。貸し出しもできます。ご活用ください。

おすすめの1冊



学校のキャリア教育（総合）を推進・充実させるために！

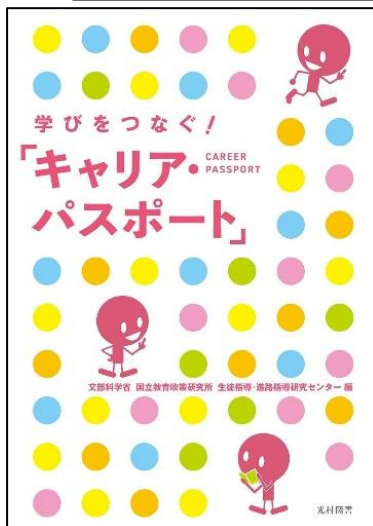
『小学校キャリア教育の手引き』
『中学校・高等学校キャリア教育の手引き』

文部科学省

2020年4月から完全実施された小学校学習指導要領、2021年4月から中学校で、2022年4月から順次高等学校で実施されている新学習指導要領。

その中には、「生き抜く力」を身につけるためのキャリア教育の重要性が随所に明記されています。

そもそもキャリア教育とは何か。また実際どう取り組めばよいのか分からないという先生方が多い中で、文部科学省がキャリア教育の意義から実際の事例までをまとめた本書は、まさに「手引き」として活用できます。



『学びをつなぐ！「キャリア・パスポート」』

出版社 光村図書

文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センターにより発行された「キャリア・パスポート」の有効な活用事例を紹介した10のリーフレットと「キャリア教育に関する総合的研究」のアンケート調査に基づく報告書（抜粋版）が、この一冊にまとめられています。

キャリア教育に関する理解をより深め組織的・系統的なキャリア教育の更なる推進・充実に役立てることが出来ます。



『問い、対話、振り返りによる 中学校の授業改革』

著・編 田村 学

編 アクティブ・ラーニング連絡協議会

出版社 小学館

「深い学び」の具体がわかる中学校改革の本！

今、中学校の「深い学び」が熱いと著者は言います。

「ここに来て、日本全国の中学校で、授業づくり、授業改革へのエネルギーが確実に高まりつつある。学びが自律的になり、高度な思考が可能になる中学校では「深い学び」をリアルな一人一人の子どもの姿として生み出すことができる。「深い学び」の具体を知りたいければ、中学校の授業を参観することをお勧めしたい。」（「はじめに」より抜粋）

本書は、中学校の4校の横断的な取組を1冊にまとめた。都道府県の枠組みを超えて、協力し、参観し、お互いの良いところを学び研究し、チャレンジした歩みを整理したものです。